

「救われるとは」

真道 乗雄

私は真宗大谷派の僧侶です。真宗とは仏教の宗派です。そして仏教とは宗教です。仏教に限らず、宗教では「救われる」という表現をよくされますが「救われる」とは一体なんなのでしょう？

私がお門徒さんのお家にお参りに行きまして、たまにご門徒さんから「お経を聞いていると安心する」と言われます。その安心とは、「救われて」安心したのでしょうか？いったいどういうことが「救われる」ということなのでしょう？

「救われる」ということが分かるためには、自分の困ったことが分からなくてはならない。困ったことが分かれば「救われる」ことが分かります。つまり私達が自分の問題を認識するということですね。自分の問題を正確に認識できれば、絶対とは言えませんがそこから救われていくことができます。ところが私達は毎日生活していますと色々な問題が起こってきます。生活の中で、もっといえば世間で起こってくる問題ですから根本的な解決は難しい。自分だけでなく他の人も関わっていることがほとんどですからね。例えば、お金の問題、家族の問題、健康の問題などです。考えてみると、もしお金の問題を救ってくれる宗教があるならば、その宗教は銀行の代わりになります。健康の問題を救ってくれるなら、病院の代わりになります。そういうなにかの代わりになっている宗教の救いとは、最初に申し上げた「救われる」ということになるのでしょうか？「救われる」ために本当に宗教に依らなければならない私達の問題とは何でしょう？

宗教だけが救える問題、お寺だけが救える問題、それは一体どんな問題なのか、考えてみてください。お寺に行けば何となく心が落ち着いて安らげるということなら、お風呂でもマッサージでも代わりになりますね。宗教にしかない、私達が「救われる」ための問題というのは何も代わりがきかない、何を持ってきても解けない問題が宗教の問題です。

そういう表現し難い問題がはっきりすることによって、宗教ということがはっきりするのだと思います。